

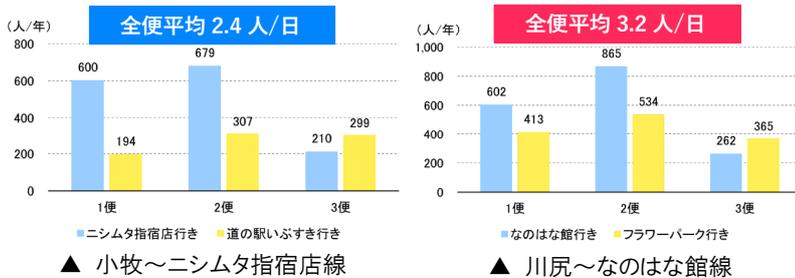
I. 指宿市地域公共交通の課題の整理

指宿市観光協会へのヒアリング調査の結果を下記に整理します。

1. 「生活交通」における現状・課題

(1) 利用状況

現状のイッシーバス利用者数は極めて少なく、R4 年度の利用者数は 1 便当たり平均 3 人程度（R5 年 7 月に実施した調査でも平均 3 人程度）となっている。利用者総数もほぼ横ばいである。



(2) 利用者の意向（各種アンケート調査より）

- ・ イッシーバス利用者（調査日の利用者 18 人）の約 6 割が週 1 日以上利用
- ・ 今後もこのまま運行を続けてほしいという意見が 9 割以上
- ・ 運行回数を増やし利便性を上げてほしいといった意見がある一方、マイクロバス規模の車両を導入してほしい、イッシーバスは空車率が高いため運用を検討してほしい等の意見も寄せられた。

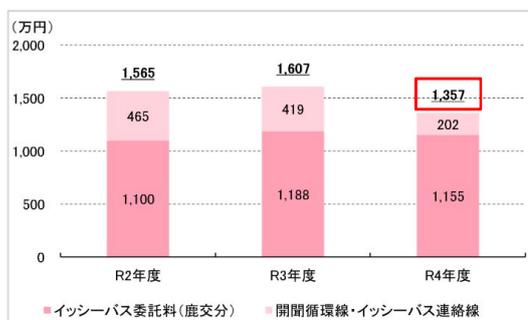
(3) 各社のリソース状況、将来展望

イッシーバスを運行する「鹿児島交通」、あいタクを運行する「タクシー協会」のリソース状況及び将来展望を以下に示す。

鹿児島交通		タクシー協会	
現状 (市内)	車両：25 台 運転手：14 名 年齢：内 10 名が 60 歳以上	現状 (市内)	車両：63 台 運転手：51 名 年齢：半数以上が 70 歳以上
将来展望	人手不足であり、事業継続のため、バス路線を集約したい。 コミバスの他交通モードの転換も検討。	将来展望	日中は余力があり、バスが廃止された場合の代替手段にもなり得る。

(4) 公共交通に対する財政負担状況

イッシーバスに対する負担額は年間約 1,300 万円であるのに対し、あいタクに対する負担額は約 250 万円である。



▲ イッシーバスに対する負担額



▲ あいタクに対する負担額

課題 1

変わりゆく時代においても、指宿市で暮らし続けるための生活交通の再構築

イッシーバスは日常生活の足として利用されているものの、その数は限られている。高齢化・人口減少、運転手不足、財政負担増加等の状況の中で、今後も本市で暮らし続けていくため、定時定路線運行のイッシーバスと、予約があったときのみ運行するあいタクの最適なバランスを検討。

2. 「観光交通」における現状・課題

(1) 利用状況

市内の主要観光地を通る「エコキャンプ場～池田湖線」の利用者は多く、R3年10月からR4年9月までの1年間の利用者は約43,000人となっている。R5年7月に実施した調査では1便当たりの利用者数が20人以上の便も見られた。また、乗客のほとんどを外国人が占める便も見られた。

一方、道の駅活お海道や山川棧橋、フラワーパークなどの施設を通る「山川～開聞駅前線」については1便当たりの利用者が2名以下であった。

路線		H29.10 ～H30.9	H30.10 ～R1.9	R1.10 ～R2.9	R2.10 ～R3.9	R3.10 ～R4.9
広域 路線 バス	金生町～山川棧橋	141,452	144,360	101,137	91,566	97,789
	なのはな館～東大川	90,399	90,122	73,341	72,268	70,888
	いわさきホテル～武家屋敷入口	51,654	51,548	41,857	39,700	39,497
市内 路線 バス	エコキャンプ場～池田湖	64,969	63,814	46,400	46,055	43,578
	山川～開聞駅前	43,437	30,888	23,542	22,534	22,974
	指宿駅前～開聞駅前 (R4.9で廃止)	34,150	36,561	30,950	30,892	28,106
総 数		426,061	417,293	317,227	303,015	302,832

▲ 路線バスの利用者数の推移

時刻	出発地	到着地	学生	外国人	合計
16:50	山川	開聞駅前	0	1	1
7:10	開聞駅前	山川	0	2	2
8:55	エコキャンプ場	池田湖	7	0	7
10:55	エコキャンプ場	池田湖	3	20	23
12:55	エコキャンプ場	池田湖	4	4	8
10:40	池田湖	エコキャンプ場	7	0	7
12:40	池田湖	エコキャンプ場	2	7	9
14:35	池田湖	エコキャンプ場	0	15	15

▲ R5 乗り込み調査結果(7/11～12)

(2) 運行状況

いぶたま1号で指宿駅へ到着し、6号で帰路につく人が多く、その間の4時間程度で効率的に観光地を回ることが求められる。しかし、バスの運行本数が少ないことや、鉄道（特にいぶたま）との乗り継ぎが悪いことが課題である。観光客は、唐船峡と砂むし温泉、そのほかに1箇所くらいは回りたいと考えている人が多いが現状ではそのような移動は叶わず、一日乗車券も活用し切れない状況である。

10:47	指宿駅着	指宿のたまたま箱1号
11:05	指宿駅前	「エコキャンプ場～池田湖線」池田湖行2便
12:06	唐船峡	滞在時間が約40分しかない
12:49	唐船峡	「エコキャンプ場～池田湖線」エコキャンプ場行2便
13:50	指宿駅前	電車の発車まで1時間以上空いてしまう
15:07	指宿駅発	指宿のたまたま箱6号

(3) 利用者の意向（各種アンケート調査・観光協会へのヒアリングより）

- 観光客のうち、滞在中にバスを利用した人は2人に留まった（回答者175人）
- 公共交通を利用しない理由としては、乗りたい時間に運行していない、公共交通では所要時間がかかる、乗り継ぎが大変といった意見が多い。
- 今後の要望としては、駅から観光地への公共交通を増やしてほしい、夏休みや連休中だけでも観光地から帰る夕方の便を増やしてほしい、観光客にわかりやすく、また来てもらえるような案内を心掛けてほしい、等の意見が寄せられた。
- また、外国人には一日乗車券が人気であり、口コミ等で情報を得ているようである。一日乗車券を使いこなせるようなダイヤ設定と、外国人にも分かりやすい情報提供も求められる。

課題2

アフターコロナを踏まえた「観光地指宿」としての対応

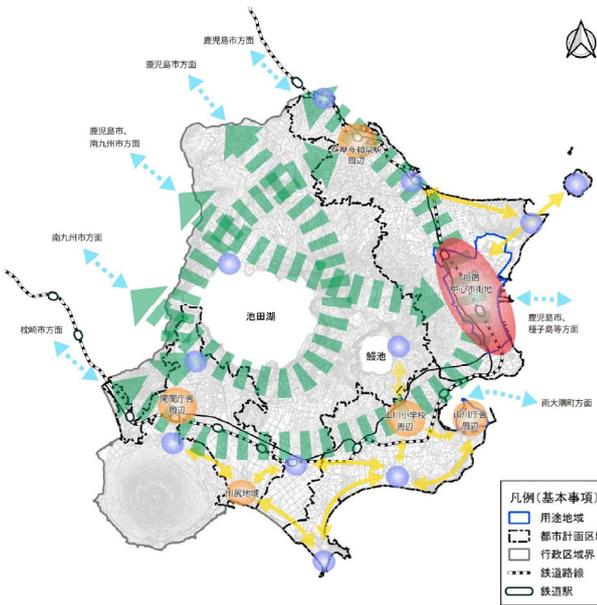
本市の観光地を巡る公共交通は運行されているものの、運行本数や乗り継ぎ等の課題を抱え十分に利用しきれない状況である。

ダイヤやルートの検討による観光地の周遊性の向上、それに伴う情報提供・利用促進策を検討。

3. 持続可能な公共交通に関する現状・課題

(1) 上位関連計画

■ 指宿市立地適正化計画 (R5.10 素案)



■ 方針①：持続可能で活気のある拠点の形成

1. 多様な都市機能の集積・維持

持続可能なまちづくりに向け、各地域に必要な都市機能（医療施設や商業施設、金融施設等）の集積・維持を図る。

2. JR指宿駅周辺の整備

JR指宿駅は、“本市の玄関口”にふさわしい魅力ある駅前広場等の整備を推進する。また、その周辺においては、観光・商工・建設等の各分野の積極的な連携を図り、にぎわいのある駅周辺整備を推進する。

3. 魅力ある商店街づくりの推進

歩いて楽しめるまちづくりの実現に向け、既存の商店街の個性を生かしつつ、利便性・快適性の高い魅力ある商店街づくりを推進する。

■ 方針④：公共交通による各拠点（中心拠点、地域拠点、生活・観光拠点）の連携

1. 地域の拠点整備

人口減少・少子高齢化が進む中で、比較的人口が維持され、都市機能が集積している各拠点等においては、日常的に身近な既存施設の維持に努める等、地域の拠点整備を図る。

2. 地域資源の整備・充実

天然砂むし温泉やフラワーパークかごしま、開聞岳等、多様な地域資源の整備・充実を図るとともに、それらの活用を促進する。

3. 公共交通網の維持

JRやバス等の公共交通は、各拠点をつなぐ重要な役割を担っており、引き続き、各地域の移動手段として維持していく。

■ 指宿市観光ビジョン

アクションプラン 1-(3) 交通アクセスの改善(充実)

観光スポットが市内全域に点在している本市においては、交通の利便性向上が必要不可欠です。本市を訪れる観光客が円滑に周遊できるよう、本市の玄関口であるJR指宿駅を中心とした観光スポット等への交通アクセスの改善や、自家用車で訪問する観光客がさらに利用しやすい環境整備を行うことにより、観光客の観光地への来訪、及び観光地間をつなぐ交通手段の利用促進を図るとともに、観光客がストレスなく周遊できる交通環境の改善に取り組みます。

具体的施策① 既存環境の改善

具体的施策② 移動するプロセスを楽しむ仕組みの構築

■ 指宿港海岸地域のまちづくり基本構想



課題 3

利用者・事業者・行政が連携し、地域と一体になった、持続可能な公共交通体系の検討

本市の上位関連計画においても、「生活」及び「観光」の両面から様々な取組が検討されている。公共交通もまちを形作る一つの要素として、利用者・事業者・行政など、地域の様々な関係者が連携し、まちづくりと一体となった持続可能な公共交通体系を検討。

II. 指宿市地域公共交通計画の骨子案

指宿市地域公共交通計画の骨子案を下記に示します。計画素案は次回会議にて提示します。

1. 本計画で踏まえるべき課題

課題 1

変わりゆく時代においても、指宿市で暮らし続けるための生活交通の再構築

- 指宿市の人口は減少傾向にあり、高齢化率は約4割。
- 市内は大きく3つの地域に分かれるが、指宿駅や二月田駅周辺に主要施設が分布し、各地域から市街地への移動ニーズが高い傾向にある。
- 一方で、人手不足や乗務員の高齢化等から交通事業者の負担は増加。市としても賃金上昇や原料費の高騰によりバス委託費が上昇し厳しい状況である。
- 今後も進行が予想される人口減少・高齢化社会においても指宿市で暮らし続けられるよう、公共交通網の再構築や新技術導入による運行の効率化・利便性向上に向けた検討が必要である。

課題 2

アフターコロナを踏まえた「観光地指宿」としての対応

- 指宿市は唐船峡や長崎鼻、たまた温泉等の観光資源を有し、日本のみならず海外からも多くの観光客が訪れる観光地となっている。
- 一方で、観光地は市内に点在しており、さまざまな地区を経由する路線バスでは周遊に時間がかかることに加え、近年の減便に伴い乗り継ぎ状況(接続)が悪化するなど、公共交通を利用した満足な観光周遊が難しい状況となっている。
- アフターコロナを迎え、今後も観光入込客数の増加が見込まれること等を踏まえ、改めて「観光地指宿」としての対応(受け入れ態勢の整備)が求められる。

課題 3

利用者・事業者・行政が連携し、地域と一体になった、持続可能な公共交通体系の検討

- 本市の公共交通を取り巻く環境は変化し続けており、今後の持続可能な公共交通を実現するためには、適切な役割分担をし、関係者全体がメリットを享受できるようにすることが重要である。
- また、地域のにぎわい創出や住みよいまちの実現のため、まちづくりや公共交通以外の施策と一体となった取り組みを進める必要がある。
- 今後も、利用者・事業者・行政の3者が連携し、地域と一体となった仕組みの構築が求められる。

2. 基本理念

地域で織りなす公共交通で、未来へ続く健幸のまちへ!!!

3. 基本方針(目標)

目標 1

変わりゆく時代においても、指宿市で暮らし続けるための公共交通の全体最適化

- 誰もが自由な外出・移動が可能で豊かな生活を享受できる未来を目指す。
- 地域特性や利用者ニーズ、行政・事業者間の状況を踏まえ、役割分担を明確化することで、効率的かつ効果的な公共交通サービスを提供する。

【目標値(案)】

- あいタク利用登録者数(or利用者数)
- 市内を運行する公共交通利用者数

目標 2

「観光地指宿」としての公共交通サービスの提供、情報提供による利用促進

- 市内に点在する観光地への周遊環境を改善するなどし、公共交通の利便性向上、観光客の満足度向上を目指す。
- アフターコロナや指宿港海岸の整備などを契機に、新たな移動手段やツアーパッケージ等の検討、国内外問わず初めて本市を訪れる観光客にもわかりやすく興味を持ってもらえるような情報発信・整備に努める。

【目標値(案)】

- 観光施設利用者の公共交通利用率

目標 3

地域の多様な関係者の「共創」による、持続可能な公共交通体系の構築

- 行政と交通事業者相互間や地域他産業領域との適切な役割分担及び連携による、地域が一体となった持続可能なサービスの提供を目指す。
- 新たな移動需要の創出や、移動目的を生み出すまちづくりなど、地域づくり全体から交通を捉えた取組を推進する。

【目標値(案)】

- 財政負担額
- 公共交通の収支率

4. 施策

(施策 1-1) 日常生活を支える施設へのアクセス・通勤通学の足の確保

取組例：鉄道の維持、地域間幹線系統バスの維持、フェリーの維持

(施策 1-2) 人口減少・高齢化の進行を考慮した効率的な公共交通の再構築

取組例：イッシーバス・あいタク・市内路線バスの再構築

(施策 1-3) 効率化・利便性向上のための新技術導入

取組例：あいタク予約プラットフォームの構築(一括契約)、AI配車システム導入、貨客混載

(施策 2-1) 市内観光地の周遊環境の改善

取組例：池田湖線の拡充・利便性向上、電車内での市内周遊方法の案内

(施策 2-2) 公共交通を活用したパッケージ商品等による利用促進

取組例：バスバックや施設割引等、地元と協議して観光と一体となった公共交通利用促進策を検討、モデルルート作成

(施策 2-3) 外国人観光客に配慮した多言語対応

取組例：公共交通案内の多言語化、多言語パンフレット作成、外国語予約サイトの開設

(施策 3-1) 事業者・行政が連携した事業継続性確保の方針

取組例：2種免許の取得補助、担い手確保のための企業ガイダンス開催、労働環境改善への補助、短時間労働の雇用支援

(施策 3-2) まちづくりと一体となった公共交通体系の構築

取組例：立地適正化計画、指宿市観光ビジョン、指宿港海岸の整備等を受けた公共交通の整備、生活・観光を含めた新たなモビリティサービス(グリスロ、マイクロモビリティのレンタル、話題性のある車両等)の導入、沿線イベントの開催

III. 指宿市地域公共交通の基本骨格案

事業者（人手）や行政（財政負担）は厳しい状況にある。「やりたいこと」と「できること」を見極め、「生活」と「観光」を両にらみで考えていくことが重要。

